

HTA 特別夏季セミナー in 蓼科 開催報告

2026 年 8 月 22 日（土）～23 日（日） 公立諏訪東京理科大学（長野県茅野市）

2026 年 8 月 22 日（土）から 23 日（日）までの 2 日間、キャノングローバル戦略研究所（CIGS）は、東京大学公共政策大学院 HTA エキスパート養成プログラム、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科医療経済評価人材育成プログラム、公立諏訪東京理科大学とともに、「HTA 特別夏季セミナー in 蓼科」を開催した。昨年に引き続き長野県茅野市の公立諏訪東京理科大学を会場に、30 名を超える参加者が集まった。

「日本版 HTA 制度の課題を考える」を共通テーマとして、4 題の講演とランチョンセミナー、4 つの分科会での討議・成果発表が行われた。現行制度の方法論上の課題を検討するとともに、講義と参加型討論を組み合わせ知見を深め、参加者同士の交流を図ることを目的とした。

初日は、東京大学公共政策大学院客員教授の齋藤信也氏による開会挨拶に続き、クレコンメディカルアセスメント株式会社取締役 COO で ISPOR 日本部会前会長の小林慎氏がイントロダクションを行った。



講演では、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授の後藤励氏が「価値の指標化に向けて：GRACE や DCEA を中心に」、同特任教授の五十嵐中氏が「新たな価値評価：ケアギバーストラップなど」、当研究所研究主幹・国際医療福祉大学教授の池田俊也が「QALY ショートフォールなど閾値調整の方法」をテーマに、それぞれの視点から最新の研究動向や考え方を紹介した。初日の後半には、これらのテーマに「欧州の JCA と東アジアの RWD」を加えた 4 つの分科会で、メンバー紹介と課題の確認を行った。



2 日目は、藤田医科大学大学院医学研究科教授の佐藤大介氏が「欧州の JCA と東アジアの RWD 研究について」と題して講演した。ランチョン

セミナーでは、当研究所元研究主幹で現在も HTA 研究会座長を務める慶應義塾大学訪問教授の鎌江伊三夫氏が「HTA はサイエンスなのかアートなのか」をテーマに講演した。分科会でのグループ討議には講師陣も加わり、グループ討議の結果報告に対して講評を行った。



今回のセミナーの意義は、費用対効果評価を単に ICER の算出や価格調整のための技術として捉えるのではなく、医療技術の「価値」を何によって評価し、それを政策判断にどのように反映するかという、より根本的な問題を考える機会となった点にある。GRACE や DCEA、QALY ショートフォール、介護者への影響など、従来の評価の枠組みを補完する新たな考え方は、重要な可能性を持つ一方、評価方法の妥当性、科学的根拠の確実性、価値の重複計上の回避、意思決定の透明性といった課題も伴う。こうした可能性と限界を併せて考えることが、今後の制度発展に不可欠である。



特に印象的だったのは、異なるテーマのいずれもが「何を科学的に測定できるのか」と「何を社会として重視すべきなのか」という共通の問いにつながっている点である。客観的な分析を尽くすことは不可欠であるが、医療技術の価値をどのように判断し、限られた医療資源をどのように配分するかには、社会的な価値判断も関わる。鎌江氏の「HTA はサイエンスなのかアートなのか」という問いは、こうした問題を考えるうえでも示唆に富むものであった。

また、講演を聴くだけでなく、参加者が分科会で課題を整理し、発表と講評を通じて考えを深める構成としたことも、本セミナーの大きな特色である。一つの結論を導き出すことよりも、現行制度における課題を多面的に捉え、今後の研究や制度設計に向けて検討すべき論点を共有すること自体に意義があったと考える。さらに、参加者間の交流は、HTA に関わる人材育成や専門家ネットワークの形成という面でも重要な成果と評価できる。

今後は、今回取り上げた新たな価値評価の考え方について、日本の医療制度やデータ環境に即した実証的な検討を進めるとともに、研究上の知見を実際の制度改善にどのようにつなげていくかが課題となる。本セミナーを機に、継続的な情報交換や共同研究、政策的議論へと発展させていくことが期待される。



プログラム

8月22日（土）

	開会挨拶・イントロダクション
12:40～13:00	齋藤信也（東京大学公共政策大学院客員教授）／小林慎（クレコンメディカルアセスメント株式会社取締役 COO、ISPOR 日本部会前会長）
13:00～13:40	講演 1「価値の指標化に向けて：GRACE や DCEA を中心に」 後藤励（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授）
13:50～14:30	講演 2「QALY ショートフォールなど閾値調整の方法」 池田俊也（CIGS 研究主幹・国際医療福祉大学教授）
14:30～15:10	講演 3「新たな価値評価：ケアギバーストラップなど」 五十嵐中（慶應義塾大学大学院経営管理研究科特任教授）
15:20～15:40	分科会：メンバー紹介と課題確認 G1：価値の指標化／G2：QALY ショートフォール／G3：新たな価値評価／G4：欧州の JCA と東アジアの RWD
16:30～19:00	懇親会（夕食） バラクラ庭園
20:30～22:00	自由討議 セミナーハウスのホール

8月23日（日）

8:45～9:25	講演 4「欧州の JCA と東アジアの RWD 研究について」 佐藤大介（藤田医科大学大学院医学研究科教授）
9:25～11:45	分科会：グループ別討議
11:45～12:30	ランチョンセミナー「HTA はサイエンスなのかアートなのか」 鎌江伊三夫（慶應義塾大学訪問教授）
12:30～13:00	グループ討議の結果まとめ・発表スライド作成
13:00～15:10	グループ討議の結果報告
15:10～15:30	講師・ゲストによる講評
15:30	閉会